

前回協議会(R4.7.21)における意見概要と対応状況

| 意 見 概 要 | 対 応 状 況 |
|--|---|
| <p>1 「黄金の茶室」関係</p> <p>① 「黄金の茶室」体験プログラムについては、反響がよく、感激したとの感想も多いとのことだが、1回に2名ずつと、利用できる人数が少なく、ツアー対応が難しく、少し残念である。</p> <p>② 名護屋城博物館への直通バスがないため、期間限定でもよいので直行便があれば（利用向上につながるのではないか）。</p> <p>2 名護屋城博物館における学習</p> <p>名護屋城の素晴らしさを子供たちにつなげる教育について、出前講座をはじめ、博物館とのつながりを活かした様々なツールで、子供たちの育成に取り組んでいただきたい。</p> <p>3 開館30周年の重みについて</p> <p>開館からの30年間に残してきたもの、そして、次に何をするのか等について考える必要がある。</p> <p>日韓交流をテーマにした常設展がある一方で、陣跡整備などでの調査・発掘の成果は、現場でしか確認出来ない。多くの戦国武将など、歴史的なシーズ（種）もあるので、それらを活かした新しい企画も検討の必要があるのではないか。</p> | <p>1 「黄金の茶室」関係</p> <p>① 茶室の性格上、一度に利用できる人数は少人数となってしまい、特に「黄金の茶室」は、文献等に基づき復元した文化財に準じるものですので、多人数への対応は難しいところではあります。</p> <p>しかしながら、量より質を重視した新たな少人数ツアーの造成について、唐津観光協会様や県観光課と連携して、検討を始めているところです。</p> <p>なお、「黄金の茶室」については、昨年度末にインバウンド向け広報動画を作成し、今後の観光客誘致等に活用いただけるよう、博物館ホームページの「黄金の茶室」体験プログラム特設ページや県のYoutubeチャンネルにて公開しているところです。</p> <p>② 令和4年度の当協議会でのご意見を踏まえ、第2回名護屋城大茶会では、昭和自動車様のご協力により路線バス臨時ダイヤでの直行便（唐津駅・バスセンター⇄名護屋城博物館入口/25分おき）を運行いただくことができました。</p> <p>2 名護屋城博物館における学習</p> <p>児童・生徒を対象とした出前講座や史跡探訪会等の従来の取組みに加えて、今年度は、県立図書館との連携展として、「城の一生」展を開催することとしています。</p> <p>この中では、テレビ等でも取り上げられている「お城博士くん」こと栗原響大（ひびき）くんをアンバサダー的に起用し、小中学生やその家族をターゲットとしたイベントも企画しているところです。</p> <p>3 開館30年経過の重みについて</p> <p>常設展示については、来年度、展示の一部リニューアルを計画しており、今年度は、その設計を進めています。</p> <p>常設展示リニューアルについては、日韓交流だけではなく、これまでの保存整備事業（発掘・整備）の成果を反映させたものにします。また、当時の名護屋に全国から有名大名が一堂に集結し、桃山文化が花開いた地でもあることをアピールし、各陣跡の周遊への</p> |

| | |
|---|---|
| | <p>好奇心を高めるとともに、主要な陣跡には、解説板を置くこととしています。</p> <p>また、これらの陣跡の周遊経路の沿線には、人気ゲームとコラボした案内表示（サイン）を整備することで、博物館を起点とした陣跡への周遊を促すこととしており、引き続き、観光客誘導や認知度向上に繋がる仕掛けや工夫に努めます。</p> |
| <p><u>4 2024国スポ・全障スポ関係</u></p> <p>唐津市が会場の競技もあり、立ち寄っていただき、認知度を上げるチャンスと考えている。</p> | <p><u>4 2024国スポ・全障スポ関係</u></p> <p>唐津市内での競技開催については、前述のサイン設置等の取組も、来訪者の誘導に寄与できるのではないかと考えています。</p> <p>また、国スポ関係では、来年度、馬術競技が開催される兵庫県三木市において、同じ秀吉ゆかりの地であることに着目し、三木市歴史資料館にて、名護屋をアピールする展覧会の企画を検討しており、関西圏での認知度向上の機会となるよう取組を進めることとしています。</p> |